

## 令和元年度 地域ケア会議について

### 1 地域ケア会議について

「地域ケア会議」は、個別のケースと地域課題の検討という大きく2つのテーマで構成されています。

守谷市では、個別ケースの検討を「地域ケア個別会議（自立支援）」と「地域ケア個別会議（困難事例）」、地域課題の検討を「地域ケア推進会議（地域包括支援センター運営協議会）」でそれぞれ実施しており、3つの会議をもって、厚生労働省の示す「地域ケア会議」としています。

### 2 「地域ケア会議」の機能

地域ケア会議には、①個別課題の解決、②地域包括支援ネットワークの構築、③地域課題の発見、④地域づくり資源開発、⑤政策の形成という5つの機能があります。

①	多職種が協働して個別ケースの支援内容を検討することによって、高齢者の課題解決を支援するとともに、ケアマネジャーの自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高める機能
②	高齢者の実態把握や課題解決を図るため、地域の関係機関等の相互の連携を高め地域包括支援ネットワークを構築する機能
③	個別ケースの課題分析等を積み重ねることにより、地域に共通した課題を浮き彫りにする機能
④	インフォーマルサービスや地域の見守りネットワークなど、地域に必要な資源を開発する機能
⑤	地域に必要な取組を明らかにし、政策を立案・提言していく機能

### 3 守谷市の地域ケア個別会議の種類

「地域ケア会議」は、地域の多様な専門職が協働し、ケアマネジャーへの支援を通じて、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしをいつまでも続けることができるよう、地域全体で支援するための手法です。

守谷市では、以下の2つの会議を地域ケア個別会議として開催しています。

	地域ケア個別会議（自立支援）	地域ケア個別会議（困難事例）
開催頻度	月1回	不定期
会議時間	1時間程度	必要時間
運営主体	守谷市及び地域包括支援センター	地域包括支援センター
会議目的	自立支援・介護予防の観点を踏まえて、「要支援者等の生活行為の課題の解決等、状態の改善に導き、自立	自立支援・介護予防の観点を加え、専門機関や地域住民が連携して、支援の方向性等の情報共有化や

	を促すこと」ひいては「高齢者のQOLの向上」	役割分担を行い，問題を解決する。
取り扱う事例	<p>自立支援・介護予防の観点に基づき実施することから対象者は「要支援者」を想定しています。</p> <p>訪問回数の多いケアプランの届け出に関するものを実施することも可能とします。</p>	<p>①支援者が困難を感じているケース</p> <p>②支援が自立を阻害していると考えられるケース</p> <p>③支援が必要だと判断されるがサービスにつながっていないケース</p> <p>④権利擁護が必要なケース</p> <p>⑤地域課題に関するケース など</p>
主な参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会者（進行補助）</li> <li>・事例提供者</li> <li>・助言者（専門職） 作業療法士 薬剤師 管理栄養士 歯科衛生士 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センター</li> <li>・事例提供者</li> <li>・専門職（ケアマネ サービス事業者等）</li> <li>・専門職以外（民生委員，その他支援者等）</li> </ul> <p>※必要に応じて参加者を選定します。</p>

#### 4 令和元年度の地域ケア個別会議実績

##### (1) 地域ケア個別会議（自立支援）

回	開催	年齢等	検討内容	個別課題
1	4/15	85歳 男 独居 要支援2	訪問介護等のサービス利用について拒否しているケース	安心して外出できる同行支援などのサービス
2	5/23	86歳 女 独居 要支援1	過度の差し入れによる不適切な食生活で，血糖コントロールが不良なケース	サロンを卒業しても <b>地域とのつながり</b> をもてること <b>通いの場</b> とのつながり
3	6/17	82歳 女 独居 要支援1	軽度認知症で，転倒傾向があり，独居に不安を抱えるケース	認知症になっても安心して，安心して暮らせる地域づくり <b>見守り</b>
4	7/25	63歳 女 夫と二人 要支援2	将来を考え，現在の介護サービスに不安を抱えているケース	60歳代や70歳代前半の方に向けた多様なサービス（ <b>通いの場</b> など）の構築

5	8/19	82歳 女 夫と次女の3人 要支援1	継続的なりハビリが必要だが、夫の入院を機に通所リハビリをやめてしまったケース	認定者で介護保険サービス未利用者の身体状況や生活状況の把握
		80歳 女 息子、弟、その他の4人 要支援2	住宅改修以外、何もサービス利用に至らないケース	
6	9/9	93歳 女 サ高住 要支援2	意欲の低下で、食事摂取を拒むケース	閉じこもり傾向のある方の、見守りや外出支援をどうするか
7	10/31	79歳 男 妻と2人 要支援1	疾患による合併症で、身体機能とQOL低下してきているケース	生きがい支援（家内役割、外出）や外出支援、通いの場（男性の集まる場）の構築
8	11/18	56歳 女 夫と2人 要支援2	減量のため、生活習慣を改善したいが、転倒の危険性があるケース	多職種連携の必要性と、顔の見える関係を構築
9	12/19	88歳 女 独居 要支援1	肥満で、減量の必要性があるが、独居のため食事や運動の管理が難しいケース	地域で利用しやすい趣味活動や外出できる先、通いの場。送迎サービス、見守り体制の構築。

## (2) 地域ケア個別会議（困難事例）

回	開催	年齢等	参加者	検討内容
1	8/22	81歳 女 息子と2人 要介護1	息子、甥、担当ケアマネ、訪問介護事業者、短期入所事業所、包括職員	ショートサービスの利用についての調整
2	8/30	69歳 男 独居 要支援1	包括職員、民生委員、本人	介護保険申請からサービス利用について
3	9/3		包括職員、社会福祉協議会職員、民生委員、本人	日常生活自立支援事業の利用について

## 5 地域ケア個別会議における検討内容等

共通課題	閉じこもりの見守り	前期高齢者の通いの場がない
現状(個人)	・独居	・サロンに行くのはまだ早い

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・閉じこもり</li> <li>・認知症やうつ症状がある</li> <li>・自分から地域との関係を避ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サークル活動では、体力や身体的についていけない</li> <li>・通いの場を選びたい</li> </ul>
現状(地域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣近所との希薄な関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンの高齢化</li> <li>・新規サロン立ち上げのリーダー不在</li> <li>・サロンメニューの固定化</li> </ul>
取り組み案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居高齢者の実態把握</li> <li>・日頃からの近所づきあいの推奨</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン以外の地域での集いの場の情報収集</li> <li>・60歳代70歳代の集いの場の検討</li> </ul>